

大型一体成形材料による CN構造及びCN生産と将来性

キーワード 構造材料/CN(カーボンニュートラル)/製品設計/生産システム/地域循環型社会

研究
概要

直面している気候変動や多様化要求に呼应し、環境対応型の材料設計技術の構築が急務。質的には、自動車の負の遺産の解消が、また、量的には、単なる製品の生産技術だけではなく日本(地域)の持つ人・モノ・金・情報をムリ無駄むらなく有効活用することがポイント。これらを推進することにより、日本(地域)の負の遺産解消にも貢献できるはずと考えた。

軽量化効果が大きいが化石資源を原料とする樹脂系複合材料のCN化において、「ムリ無駄むら」の視点で商品性や生産性の改善にもたらす因子を整理してみた。結果、大型一体成形が可能な材料設計が重要と予想し、講演や展示会で提案。高分子系複合材料の持つ大型一体成形性と軽量化を追及すれば、将来性は高いと判断。有効性を精査中。

今後の
展開や
メッセージ

多様化する種々モビリティを考えた場合、エネルギー消費や製品特有の安全性、信頼性を発揮するには高分子系複合材料は有効。そのため、樹脂系複合材料の製品を設定し、ケーススタディしながら着眼点に対する有効性と課題を試作・評価を通して見極められるように計画。講演、展示等を通して賛同者を集め、知見を共有化していきたい。

研究者
情報



影山 裕史 教授・工学修士

大学院工学研究科 高信頼ものづくり専攻
所属研究所：高信頼理工学研究センター

研究者情報URL

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/BEAIG.html>
<https://researchmap.jp/7000009752>
<https://www.youtube.com/watch?v=NJjP7zKDV3Q&list=PLZH3AKTCrV5WDVZvFE5Dv66fzX0z4w0&index=5>

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

11 住み続けられる
まちづくりを

13 気候変動に
具体的な対策を

